

ISAF アニュアルミーティング報告
(デンマーク・コペンハーゲン 2004.11.)

ISAF カウンシル
穂積 八洲雄

今年は4年に1回の総会の年であり、10年会長を勤めたポール・ヘンダーソンの任期満了に伴う会・副会長改選、カウンシル、各委員会委員の選任、北京オリンピック使用艇種の選定等、重要な決定が行われた。

カウンシル報告

一般事項

・2005年度予算承認

アテネオリンピックからのIOCマネーの額はまだ確定していないが、今年末までに650万ドル払い込まれる。およそ90%。これまでオリンピックマネーが入ると、5等分し、1を長期貯蓄、残りを4年間に分割して使うという超健全財政を実施してきた結果、十分に貯まったので今回は長期貯蓄にまわさず、必要なサービスに当てることが承認された。北京オリンピックの配分は1000万ドル前後と予想される。

・報告

- ・WSSRC(世界セーリングスピード記録カウンシル) 今年は世界一周に58日、24時間セーリングに706海里の記録が作られた。500メートルのスピード記録は1993年に作られた46.52ノットの記録を破ることはできなかった。しかしカイトセーリングで40.58ノットの記録がでており、やがてカイトセーリングが記録を作ると思われる。
- ・IFDS(障害者セーリング国際基金) アテネパラリンピックを中心に写真を交えて活動報告。どれほど重症の障害者がセーリングしているかの実例は想像を超える。
- ・2007年全オリンピック種目世界選手権大会(ポルトガル・カスカイス)についてヘンダーソン会長の現地視察報告があり、準備はすばらしいが、日程上パンアメリカン大会、北京プレオリ、ユースワールドとの競合を調整する必要あり。
- ・Connect to Sailing 3人の大使が任命されMNAsとの仲立ちを務めることになった。報告ではこの運動にセーリングに関わる業界が積極的に参加することになった。

重要決議事項

・北京オリンピック使用艇種の変更

女子シングルハンダー、ヨーロッパからレーザーラジアルに

ヨーロッパはセーラーの体重に合わせることができる利点に支持が多かったが、費用、女性のセーリングの普及という面が重視されレーザーラジアルに。24対12ウインドサーフィン、ニールプライドRS:Xに

新艇にたいする不安からミストラルをという声も強かったが、トライアルレースや評価委員会の結論としてハイブリッドボードが推薦されたことの他に、従来のミストラルが工場も販売網も持たなくなっているという事情があった。ウインドサーフィンのマスプロダクション工場は現在世界でタイのコブラだけになっている。新ボードについては来年1月末 MNs に直接わたることを考える。26 対 12

・オリンピック予選について

2007年の全オリンピック種目世界選手権で75%を選び、残る25%を2008年6月1日までに行われる各クラスの世界選手権で選ぶ。

・オリンピック予選枠を各大陸・地域大会にも与えよという日本の提案について

オリンピック予選についてのIOCの基本方針にそぐわないとの理由で却下されたが、提案に含まれる趣旨については考慮しなければならないので再提案を求められた。

・オリンピックのセーリング競技を一般に分かりやすく、TVに魅力あるものにする提案は決定に至らなかったが、G-1レース以外で積極的に実験・検討を続けることになった。

・ウインドサーフィン委員会は技術委員会のサブコミッティーとせず独立を保つ。

ウインドサーフィンの将来の発展のための措置

・International Sailing Coaches Association (ISCA)をそのまま所属団体とする案は否決
新しく Coaches Commission がつくられる。

・2007年ユースワールド、アメリカ・サンディエゴ。2007年ISAFチームレース世界選手権、インド・ムンバイ。

・かつてのネーションズカップが2006年を目途に復活することになった。

・6大陸協会の区分けが確定し、ヨーロッパ大陸協会承認

・カザフスタン、Hグループ。旧ユーゴスラビア (Selvia Chelnagora) Cグループ承認

・RRS 2005-2008の基本規則3を変更してスポーツ仲裁裁判所への控訴の筋道を明確化し、レーシングルール委員会の批准を待って、2005.1.1.より実施する。

その他

・大谷たかお氏がJグループ代表のカウンシルメンバーとして承認された。

・十年間会長をつとめたポール・ヘンダーソンの慰労と70歳の誕生日祝賀パーティー開催

・穂積に銀賞授与